独立行政法人 国立病院機構
呉医療センター・中国がんセンター

Vol.3
2020
October
令和２年10月

波と風

理　念

**思いやりのある
やさしい誠実な医療を
提供します**

基本方針

1. わかりやすい説明による安心・安全な医療を提供します
2. 最新の知識と技術による質の高い医療を提供します
3. 地域医療機関との連携を強化し、地域社会の発展に貢献します
4. 高度な専門性をもつ医療人の育成に努めます
5. 医療資源を適正に活用し、健全な経営を実践します

CONTENTS

2P　診療科紹介（消化器内科）
3P　診療科紹介（血液内科）
4P　診療科紹介（循環器内科）
6P　職場紹介（外来）
7P　職場紹介（手術室）
8P　職場紹介（企画課（経理部門））
9P　職場紹介（栄養管理室）
10P　認定看護師活動紹介（皮膚・排泄ケア）
11P　救急医療功労者表彰（広島県知事）
12P　看護学校オープンスクール
13P　永年勤続表彰
14P　患者環境等サービス委員会より
15P　新型コロナウイルス感染症院内対策の取り組み
16P　寄付について、編集後記

診療科紹介

消化器内科

炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎・クローン病）の新しい検査

医長　楠　龍策
内視鏡センター長　桑井　寿雄

〔はじめに〕

消化器内科領域で、最近最も注目されている疾患は「炎症性腸疾患」です。最近、著名人が闘病していることが報道され、ご存知のかたも多いかもしれませんが、主に「潰瘍性大腸炎」と「クローン病」の二つの病気のことを指し、その患者数は増加の一途をたどっています。当院では炎症性腸疾患の患者数の増加に対応するため、昨年専門外来を設置しました。そこで今回は、当院でおこなっている炎症性腸疾患に対する最新の診療についてご紹介します。

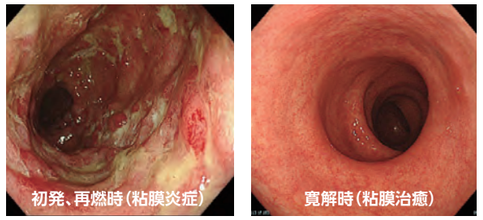
〔炎症性腸疾患とは〕

炎症性腸疾患は、おもに若いかたで発症する腸の病気で、再燃と寛解（悪くなったり良くなったりすること）をくりかえす慢性疾患です。主な症状は下痢と腹痛で感染性腸炎とよく似ていますが、長期間（1か月以上）症状が続く時や血便がある場合には炎症性腸疾患の可能性があります。同じような症状が出る病気には過敏性腸症候群や大腸癌などもあり、診断のためには次にお話しする内視鏡で大腸や小腸を検査することが必要です。

〔炎症性腸疾患の内視鏡検査〕

炎症性腸疾患をはじめ消化器内科の検査の代表はなんといっても内視鏡検査です。炎症性腸疾患では粘膜が、赤くなり、むくみ、潰瘍などの傷ができて「炎症」をおこしている様子が内視鏡でよくわかります（図1）。また組織を採取して病理検査をすることもできますので診断を確定するには内視鏡検査は必須です。また診断後も、治療が有効かどうかその効果を判定するためにも内視鏡はとても重要な検査となります。というのも最近になり、下痢などの症状をおさえるだけでなく、さらに内視鏡検査で観察される粘膜自体が正常になるまでしっかりと治療を継続することが、病気が再燃しないため大切であることが分かってきたからです。この内視鏡で正常になるまで良くなることは「粘膜治癒」と呼ばれています（図1）。

図1. 内視鏡画像（潰瘍性大腸炎）



当院では、通常のスコープを用いた内視鏡に加えて、最新式のカプセル内視鏡が可能です。このカプセル内視鏡は、約2cmのカプセルを飲み込むだけで小腸や大腸の粘膜の状態が良くわかり、治療の目標である「粘膜治癒」になっているかどうかを調べることができます。（図2）。

図2. カプセル内視鏡

〔炎症性腸疾患の便の検査〕

以前は内視鏡でしかわからなかった「粘膜治癒」を、便の中のカルプロテクチンという物質の量を測定することで予測する方法が最近開発されました。この便中のカルプロテクチンは、腸に炎症がおこると増加する一方で、治療で粘膜治癒までよくなると減少します。この検査は便をとるだけで簡単にできるので、治療を調節するときに必要な繰り返しの検査としてとても便利です。また、炎症性腸疾患とおなじ下痢の症状がでる病気に過敏性腸症候群がありますが、実は、過敏性腸症候群では便カルプロテクチン検査で異常がないことが分かっています。腸が心配だけど内視鏡はできればうけたくない!というかたは、まず便カルプロテクチン検査をしてみることも可能ですので一度ご相談ください。

〔おわりに〕

今回は炎症性腸疾患の新しい検査についてご紹介させていただきました。まだまだ他にもたくさんの検査があります。下痢や腹痛の症状が続いて不安がある方は、当院の「炎症性腸疾患外来」にいつでもお越しください。またこの分野では、いわゆる特効薬というような新しい薬がどんどん開発されています。当院は国立病院機構の一員であることから、新しい薬の治験も積極的に行っていますので、既存の治療では効果が不十分で最新の検査や治療のご希望がある方も、当院の「炎症性腸疾患外来」を是非とも受診してください。今後とも何卒よろしくお願いいたします。

内視鏡センターのメンバー

診療科紹介

血液内科

血液内科

科長　伊藤　琢生

①血液疾患全般の診療

当科では鉄欠乏性貧血、免疫性血小板減少症のようないわゆる血液良性疾患から白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫等の血液悪性腫瘍にいたるまで、血液疾患全般の診療を行っています。また、近年新規に開発された分子標的薬をはじめとする新規薬剤も積極的に応用し、治療成績の向上をめざしています。

末梢血幹細胞採取の様子

造血幹細胞移植の流れ

造血器腫瘍の治療

1. 化学療法
2. 造血因子
3. 造血幹細胞移植
4. 分化誘導療法
5. 分子標的療法
6. 遺伝子治療
7. 副作用とその対策

②造血幹細胞移植治療の進歩

造血幹細胞移植は血液疾患の根治が得られる可能性のある強力な治療法ですが、一方で副作用も強く、これまでは65歳が移植適応年齢の上限とされてきました。しかし、呉地域は全国でも最も高齢化が進んだ地域であり、65歳以上の高齢者の血液患者数も急速に増加しています。そのため、より高齢の年齢層にも移植のニーズが拡がっており、今後はますますその傾向が強くなると予想されます。当科では移植の前処置と呼ばれる放射線治療や化学療法を工夫するなどして、より安全性の高い移植法を目指して努力しています。

骨髄採取の様子

③チーム医療の推進

当科のスタッフと病棟看護師に加えて、薬剤師、心理療法士、理学療法士、歯科衛生士等の多職種に参加していただくカンファレンスを定期開催し、移植症例、緩和期症例などについて意見交換しています。移植医療はまさに全人的医療の実践が行われる医療です。頭から足先まで身体のあらゆる合併症に対処しなければなりません。また、患者さんの精神的なケアも重要な治療の一環です。医師だけでは到底成立しない医療であり、看護師をはじめ各種スタッフの連携がかかせません。チームの連携がやがて質の高いきめ細やかな患者さんへのケアに繋がっています。

多職種カンファレンスの様子

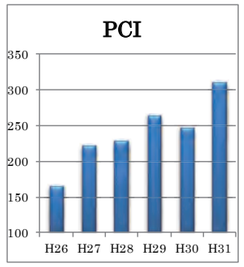
診療科紹介

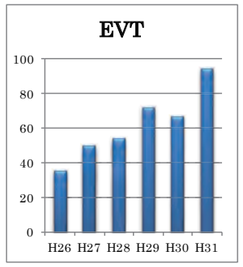
循環器内科

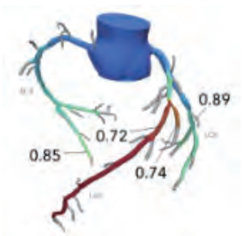
『呉医療センター』の循環器内科、『中国がんセンター』の循環器内科

科長　杉野　浩

当院は、第3次救急医療を担っており、平成16年より循環器内科・心臓血管外科のスタッフが協力し呉地域では唯一である『呉心臓センター』を開設しています。呉心臓センターは、24時間365日、循環器内科や心臓血管外科の専門医師が診断、治療に迅速に対応致します。救急治療を要する心臓血管疾患の患者さんを積極的に受け入れています。現在、循環器内科は8名のスタッフで、日常診療/救急対応に当たっています。当科は循環器疾患の中でも、虚血性心疾患(PCI)・末梢血管疾患(EVT)の血管内治療を得意分野としており、地域人口は減少している中、治療件数は年々増加しています。(平成26年度比で倍増)







PCIについて注目頂きたいのは件数の増加だけではなく、その治療の質の向上です。近年、AUC(Appropriate Use　Criteria)で示される安定狭心症に対するPCIの適切性が強く求められ、診療報酬算定にも反映されています。以前、PCIはその低侵襲性から、不適切な症例、つまりPCIのメリットが得られない症例にも適応される傾向がありました。心筋灌流が不足する状態=虚血、の証明がPCI施行に必須とされるようになったのです。当科では安定狭心症の診断に、外来での冠動脈CTを多用していますが、令和2年6月からはFFRCT(冠動脈CT画像で、機能的虚血評価が可能)を導入し、正確な虚血評価と病態診断を行っています。入院治療に際しては、冠血流予備能検査(FFR/iFR/RFR)を用いて虚血の証明された症例のみにPCI治療を適応しています。治療適応を厳しく判断すると治療件数は減るのですが、当科では治療の妥当性を担保しつつ、件数も増加しています。また、多枝病変、慢性完全閉塞病変(CTO)、高度石灰化病変といった複雑病変に対する血管内治療も行っており、DCA(方向性粥腫切削術)/Rotablator　/Diamondbackなどの、特殊デバイスも積極的に取り入れています。急性冠症候群ACSへの対処は循環器科が最も得意とする分野であり、令和元年度は118件のACSを治療しました。救急部看護師、臨床工学技士、放射線技師、時に救急部Dr.と協力しハートチームとして救急対応にあたり、良好な患者転帰を得ています。

EVTについては人口構成の高齢化にともない、合併症を抱えた下肢虚血(重症虚血肢)の患者さんに対する血管内治療数が増加しています。重症虚血肢は治療が奏功しなければ下肢切断や敗血症により予後不良となる病態であり、当科は下肢虚血の評価と血管内治療による血行再建の部分を担っており、多様性に富む下肢の狭窄・閉塞病変の血行再建カテーテル治療を行っています。以前は治療困難であった慢性閉塞病変では、その中枢側と末梢側から治療を行う、両方向性アプローチを併用することで、ほぼ全例に一定の血流改善を望めるようになりました。冠動脈治療では一般的に用いられる薬剤溶出性ステント・バルーンが使用可能となり、下肢血管も長期開存が望めるようになってきました。

最新の血管内治療手技を自施設で研鑽すべく、全国区レベルの院外講師を招聘してのカテーテルインターベンション(PCI/EVT)ワークショップを開催しました(2019)。

三田市民病院　吉川糧平先生
　CTOワークショップ
宮崎市郡市医師会病院　柴田剛徳先生
　Rotablatorワークショップ

この他、スタッフは各種のカテーテルライブデモンストレーションコースへ参加することとし、全国レベルの最新の治療トレンドをしっかり把握するようにしています。

重症不整脈、重症心不全に対する先進治療である、植え込み型除細動器(ICD)、両心室ペーシング(CRT-P/CRT-D)の植込みが可能な認定施設であり、呉医療圏内で治療が受けられます。カテーテルアブレーション治療は行っておりませんが、心臓電気生理検査(EPS)件数も多く、リードレスペースメーカー、植え込み型心電図モニタ、ペースメーカー遠隔モニタリング等の最新不整脈診断・治療デバイスが使用可能です。特にリードレスペースメーカーは、経静脈的に右心室壁に留置するタイプのペースメーカーであり、容量1cc　重さ1.75g超小型ですが従来型のペースメーカーと同等の機能・電池寿命があり、その低侵襲性は驚異的です。当科では早期からこの患者満足度の高いペースメーカーを導入しており、県内でも上位の植え込み件数です。

心不全治療では、急性期には非侵襲的陽圧換気(NIPPV)や、緻密な循環作動薬の使用で、速やかな症状改善を目指します。血管内治療に精通している強みを活かし、IABP/PCPS等の補助循環装置、一時ペーシングやSwan-Ganz血行動態モニタを早期から使用します。亜急性期から早期にリハビリテーションを開始し、多職種が関わる心臓リハビリテーションで、患者さんの自宅退院を目指しています。

また近年、腫瘍循環器病学(Onco-cardiology:がんと循環器の両者が重なった領域を扱うという新しい臨床研究分野)が話題となっています。がん患者に多い静脈血栓症、抗がん剤・抗腫瘍薬による心筋障害など、多彩な循環器疾患が含まれます。直接がんを扱うことの少ない当科も、腫瘍循環器病学を通して、がん患者さんが集約されるがんセンターの一員としての役割を担っています。

専門施設、認定施設としては以下の通りであり、循環器専門医、心血管インターベンション治療専門医、超音波学会専門医、高血圧専門医、心臓リハビリテーション指導士、プライマリケア専門医を要し、循環器の幅広い領域で専門性の高い診療を行います。

- 日本循環器学会認定　循環器専門医研修施設
- 日本心血管インターベンション治療学会(CVIT)教育認定施設
- 日本高血圧学会専門医認定施設
- CRT/ICD植込み施設
- 浅大腿動脈ステントグラフト実施施設

病診連携を密にし、心臓センターへの紹介・搬送手続きを容易にする目的で、平成27年から心臓センターホットラインを導入しています。令和元年度は21医療機関から、年間54件の御紹介を頂き、90%の患者さんが緊急入院となっています。心不全、不整脈、急性冠症候群、肺塞栓、大動脈解離などの緊急疾患を御紹介頂いており、患者さんにとっては1分でも早い治療介入のために、診療所の先生方には気軽に御相談頂けるツールとして活躍しています。

循環器内科スタッフは、呉医療圏の心血管疾患患者を救うべく、多くの当直・待機をこなし、日夜奮闘しています。循環器内科は緊急時には反射的に出力120%で動いていますので、色々とご迷惑をお掛けしますが、今後ともご指導、ご鞭撻の程宜しくお願いいたします。

後列左から　下永　岡　杉野　住元　木下
前列左から　坂井　柏原　市川

職場紹介 外来

病床管理看護師長　井上　恵美

令和2年4月より、病床管理看護師長に任命され外来に配属となりました。700床の病床の管理を行うのは容易ではありませんが、病床管理責任者の指示のもと、地域連携室をはじめとする部署との連携を図り、入院が必要な患者さんが安心して療養できるよう病床の確保を行っています。

今回は、外来の概要と外来での新型コロナウイルス感染症対策についてご紹介させていただきます。

【外来の概要】

外来は37診療科を有し、1日平均1000人前後の患者さんが来院されます。診療科は、1階と2階に配置され、臓器別にセンター化しており、診療や検査を行っています。1階には、化学療法センターや中央処置室、2階には内視鏡センターがあり、検査や治療を積極的に行っています。また、地域医療支援病院として紹介患者さんの診療を行っており、心筋梗塞や骨折など地域医療連携パスを使用し、地域と連携を図っています。

外来には、皮膚排泄ケア1名、慢性心不全看護1名、放射線療法看護1名、緩和ケア1名の認定看護師が所属しています。それぞれの診療科で専門性を発揮しながら、退院された患者さんや入院される患者さんの継続した看護ができるように支援しています。

また、内視鏡検査室では、内視鏡技師免許を有した看護師が4名おり、医師の診療の補助や医師と連携をとることで患者さんが安全・安楽に治療を受けられるようにメディカルスタッフとともに看護を実践しています。

【新型コロナウイルス感染症対策】

外来では、感染拡大を防ぐための対策として、医療スタッフのマスクの着用や手指消毒の徹底はもちろんですが、各診療科の受付で来院された患者さんの発熱や呼吸器症状等の確認を問診させていただいています。(写真1)

発熱等の症状がある方は医師に相談し、一般診療の患者さんと感染症が疑われる患者さんが混在しないようにしています。

また、可能な限り待合では患者さんや付き添いの方に間隔をあけて座っていただき、診療後には看護師がアルコールでの清掃を行っています。(写真2)

今後も継続して感染防止を実施し患者さんが安心して医療を受けられるよう努めて参ります。

写真1:診療科窓口での問診

写真2:アルコールでの清掃

職場紹介 手術室

手術室師長　和井元　孝紀

<手術室の概要>

当手術室は8室で稼働しており、15診療科の手術が行われています。

令和元年度の総手術件数は4415件、緊急手術は467件でした。手術室看護師は2交代制の勤務を行っており、365日24時間、各種緊急手術に対応しています。患者さんが安心して安全に手術を受けることができ、順調に回復されるように手術医療チーム全員が協力して治療と看護を提供しています。

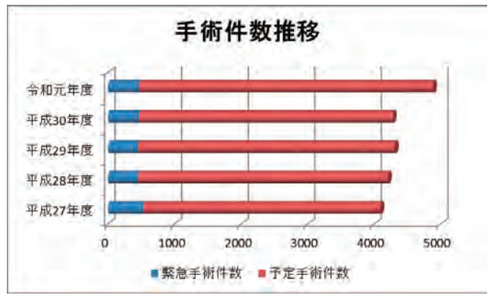


図1:手術件数推移

<看護の特色>

手術を受けるということは、ほとんどの患者さんにとって未知で不安なものです。手術室看護師の役割は、患者さんの不安を理解し、安心して安全な手術を受けられるよう看護を提供することです。

そのため、手術室看護師が術前訪問・術後訪問を行っています。術前訪問では、手術室に入ってからの流れを説明し、手術についての不安や疑問点等、何でも質問して頂ける環境を整えています。術後訪問では、手術後の回復の様子を確認させて頂き、患者さんと回復の喜びを共有するとともに実践した看護の振り返りを行っています。

写真1:手術風景

安全面では、執刀科医師・手術室看護師・麻酔科医により患者さんの氏名・術式・手術部位・体位等、患者さんの情報を共有し、安全の確保に努めています。今後も、知識・技術の向上とともに「患者さんの目線で気持ちに寄り添う看護」を大切に看護実践していきます。

職場紹介 企画課(経理部門)

企画課長　上藤　大征

事務部は企画課と管理課があり、企画課の中には経営企画室があります。企画課の業務は大きく分けて経理と医事に分かれており、今回は、外来診療棟3階にある企画課経理部門を紹介させていただきます。

企画課(経理部門)は経理、財務管理、契約の3つの係で構成されています。

まず、経理係の主な業務は、病院の『債務』(病院で購入した物品や様々な契約に基づく支払い)を管理することです。取引業者への支払い以外にも、給与・旅費などすべての支払い手続きを行います。取引する額は非常に大きく、支払い件数も年間で11,000件を大きく上回っています。しかし、現金を取り扱うことはほとんどなく、ネットバンキングを使ったインターネット上での決済となっており、ボタン一つで何億円という支払いを行っています。私が一般職員の時代は給与や旅費は現金での支給でしたので、億の現金を手錠付きジェラルミンケースに入れて銀行から持ち帰っていました。すごい緊張感でしたが、今の時代もただ、ネット上で数字が動くのではなく、緊張感をもって業務を行っていくよう指導しています。また、科学研究費、臨床研究費などの研究費全般の管理及び執行も行っています。

次に、財務管理係は病院の収入となる医療費等の収納など、いわゆる『債権』の管理をしています。こちらの取り扱い件数も非常に多くて年間で11,000件を上回っています。また、医療費の未払者に対しては、企画課医事部門と連携して窓口・電話督促、督促状の発送や法的措置の申し立てなど、その回収に努めています。医療費を支払われない方にも理由があります。そこをなんとか支払っていただく、それを管理する業務の大変さは昔とあまり変わってないように思います。(もちろんシステムは昔と比べようもありませんが)病院の日々のキャッシュを管理するのも財務管理係の業務です。他にも国、地方自治体から交付される補助金の申請や管理も行っています。

契約係は病院で使用する全ての医薬品、医療機器、消耗品等の調達や清掃、保守点検などの業務委託、また、建物・機器などの修繕業務などの契約を担当しています。こちらの取り扱い件数は年間30,000件に届こうかというところです。契約事務には厳密なルールがあり、そのルールの中で必要な物を必要な時までに調達できるよう業務しています。また、契約手続きだけでなく、価格交渉などによる経費の削減にも日々取り組んでいます。

平成16年度の独法化以降、機構は複式簿記を使った経理処理をしており、これにより財務諸表を作成しています。財務諸表により病院の経営は評価され公表もされます。精度の高い経理業務を目指し、勘定科目のチェック、課税・非課税、不課税の検証、また、他病院における会計検査や期中監査等での指摘事項の解消に努めています。最後に、企画課経理部門の職員は、現在14名です。日々コンプライアンスを遵守し、かつ、効率的な業務を心がけています。

企画課一同

職場紹介 栄養管理室

栄養管理室長　別府　成人

栄養管理室は、管理栄養士、調理師、事務助手、調理助手、総勢23名で患者さんの栄養管理を行っております。その中で安全・安心また喜ばれる食事の提供は重要な役割であり、給食委託職員も含め全員で取り組んでいます。調理する食種は様々であり、並菜食や糖尿病食及び心臓病食等の特別治療食、合わせて毎食約400食を調理し、温冷配膳車を使用して温かいものは温かい状態、冷たいものは冷たい状態で提供しています。食事サービスでは、並菜食の方を対象に毎週水・木・金曜日の夕食時に選択メニューを実施し、また化学療法等により食欲が低下した患者さんには特C食という味をしっかり付けた料理やさっぱりした料理を提供しています。他にも妊婦さんに対し調理師手作りでの祝い膳や行事食等患者さんに喜ばれる食事の提供に日々努力しています。

病棟業務では管理栄養士の病棟担当制としており、食事に関する問い合わせやより適した食事の提案等が迅速に対応できるように心掛けています。食事に関する疑問や栄養指導の依頼等があれば気軽に病棟担当の管理栄養士に声をかけていただければと思います。また外来においても管理栄養士が曜日担当制にて栄養指導を行っており、様々な疾病に幅広く対応しています。特徴としては指導と同時に体組成計にて体脂肪率や筋肉量の測定を行っており、食習慣と合わせて評価しており、高い指導継続率につながっています。

栄養管理室はチーム医療にも積極的に参画しており、糖尿病教室、NST（栄養サポートチーム)等チームでも患者さんの栄養管理のサポートに努めています。
患者さんのより良い栄養管理のため栄養管理室一同頑張っていきたいと思いますので今後とも宜しくお願いします。

調理風景

栄養指導風景

祝い膳

特C食

認定看護師
活動紹介

皮膚・排泄ケア認定看護師（専従）

副看護師長　大田　百恵

皮膚・排泄ケア認定看護師は、褥瘡をはじめとした創傷、人工肛門・人工膀胱（ストーマ）造設術を受ける患者さんの術前から術後、社会復帰におけるケア、失禁による皮膚障害のケアなど、あらゆる傷を持つ患者さんのケアを行う看護師です。

私は、本年度より褥瘡管理者として褥瘡防止対策チームの一員として活動をしています。患者さんの創傷を早く治すためには、日々のケアはもちろんのこと、栄養状態の評価や使用する薬剤の種類など、医師・栄養士・薬剤師との連携が不可欠になります。褥瘡防止対策委員会では、毎週火曜日に褥瘡回診を行っています。褥瘡回診のメンバーは、医師、薬剤師、栄養士、看護師で構成しており、褥瘡を持つ患者さんを1～2名対象とし、患者さんの活動状態、栄養の評価、リハビリの実施状況などのカンファレンスを行っています。

褥瘡回診カンファレンスの様子

その後、実際に患者さんの褥瘡をメンバーで確認し、処置方法や褥瘡の治癒促進に向けてのケアを考え、病棟看護師や主治医へ提案をしています。

処置の様子

褥瘡管理者として、褥瘡ができる危険性を持つ患者さんの予防的ケアにも重点をおいて活動をしています。長時間の手術を受ける方、医療機器を装着されている方、自分で寝返りができない方など、褥瘡ができやすい要因は様々です。特に、近年ではスキン - テアといって、主に手足に発生する皮膚裂傷の予防に力を入れています。スキン - テアは、高齢者や皮膚が弱い方、医療用テープを剥がす際に多く発生し、その創傷は患者さんに大きな痛みと精神的苦痛を与えてしまいます。このスキン - テアを起こさないために、皮膚の保湿や、環境整備、看護師への啓発活動を行っています。

日本創傷オストミー失禁管理学会の
スキンーテアの啓発ポスター

また、昨年、創傷管理に関する特定行為研修を修了しました。「特定行為」とは、従来は医師の判断に基づき実施してきた医療行為を、医師があらかじめ作成した手順書に基づいて研修を修了した看護師が行う医療行為です。今後、壊死組織の除去、局所陰圧閉鎖療法などの創傷管理に関する特定行為を日々の患者さんのケアに役立て、創傷が 1 日でも早く良くなるように活動していきたいと思います。

広島県令和2年度 救急医療功労者知事表彰に際して

救命救急センター部長、救急科科長　岩﨑　泰昌

広島県では、救急医療功労者知事表彰を施行しており、毎年 9 月 9 日の「救急の日」前後に表彰式が行われています。今回、呉市医師会から推薦を頂き、令和 2 年度の救急医療功労者として私が表彰を受けることとなり、表彰式に出席しましたのでご報告いたします。

この表彰は救急医療対策の推進等救急医療の確保に貢献した団体及び個人について、今後の一層の尽力を期待して、救急医療の充実を目的として贈られるもので、昭和 58 年から実施され、これまで 76 団体、100 名が表彰されています。当院に関しては、団体として平成 25 年に表彰を受け、個人としては平成 30 年に副院長　中野喜久雄先生が表彰を受けられています。今年度は団体として、三宅会グッドライフ病院、広島共立病院の 2 病院が選ばれ、個人として、東広島医療センター　下田浩子先生、広島市民病院内藤博司先生と私の 3 名が選ばれました。

今回、私は広島大学病院および当院にて長年に渡り救急医療に従事してきたことに加え、広島大学医学部の学生に対する救急医学教育、広島県消防学校や広島市消防局救急救命士養成所などにおける救急隊員、救急救命士教育、さらに平成 30 年より施行された広島県指導救命士制度の構築などに携わってきたことに対して表彰を頂いたもので、大変光栄に存じます。しかしながら、救急医療は、一個人の努力でできるものではなく、当院の医療スタッフはもちろんのこと、さらに地域の医療機関の先生方、救急隊などの行政機関等の皆様方の日ごろからのご尽力があってこそ成り立っているもので、関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

この表彰を新たなきっかけとして、今後も微力ながら救急医療へのさらなる貢献を行っていきたいと考えておりますので、変わらぬご指導、ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

表彰状授与

知事との写真

看護学校オープンスクール

9月オープンスクールの開催について

看護学校　教員　村川　陽子

看護学校では、9月6日（日）、12日（土）にオープンスクールを開催しました。本年度は新型コロナウィルス感染拡大予防対策のため、参加人数を30名限定で、時間帯は午前中のみとし、例年好評であった昼食交流会は残念ながら中止しての開催としました。申し込みは7月16日開始から、わずか1日半で締め切るほど殺到し、高校生の来校の希望が多いことに驚くほどでした。昨年は一日で82名の参加でしたが、本年度は二日間で57名（3名欠席あり）の参加がありました。オープンスクールの実施については、参加する高校生と当校の学生の健康を守る必要があることから、フェイスシールドの作成、参加2週間前からの健康観察シートへの体温等の記入、ソーシャルディスタンス、アルコール手指消毒など、可能な限りの対策をとりました。9月6日のオープンスクールでは、台風10号の接近にも見舞われましたが、無事実施することができました。

担当学年は1年生と3年生でした。学生が看護技術体験として準備していたのは「沐浴・新生児の抱き方・妊婦体験」「手洗い」「点滴静脈内注射」の3点でした。学生が高校生に技術のポイントを教えたり、質問に対して真摯に対応する姿を見て、改めて看護師を目指す学生の成長と人間的魅力を感じました。私たち教員も安心して見守ることができました。高校生の反応は「初めて看護技術を見学・体験して、

オープンスクールに参加する前よりも、もっと将来看護師になりたいと感じた」、「オープンスクールに参加して、より呉医療センター附属呉看護学校に行きたいと思った」、「学生が中心となって受付や案内、看護技術体験でもわかりやすい説明で、とても自律している学校だと思った。ここに入学したい気持ちが強くなった」と感想が書かれていました。改めて、オープンスクールの影響力を感じました。来春、入学生として出会えることを楽しみにしています。

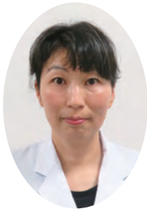
永年勤続表彰

30年以上

副調理師長　岩崎 康宏

20年以上

看護師長　大塚 晴美
副看護師長　松本 春美
看護師　杉原 園子
血液主任　古川　容



血液主任　古川　容

最初に、支えてくれた両親やお世話になった多くの方に御礼申し上げます。国立病院機構には20年以上の職歴があり、非常勤　賃金　検査助手　臨床検査技師と正職員になるまで転勤も重ねていました。そのため転勤経験は5回となります。

仕事が楽しくて、週末より勤務日にワクワクした時期もありました。若い時は人生の大半を仕事中心で、生きている時間を捧げているのが楽しい時期もありました。しかしながら勤務先や住まいが変わる事によって、利点もありましたが失っていくものもありました。心身ともに病む事も、生き方に思い悩むことも経験しました。

今、振り返り思う事は、仕事でも趣味でも日々の生活でも、何かに挑むにしても心身の健康は大事だと気づけたことでした。食べ方、生き方、考え方など根底から考えました。

今までの経験を活かし、今後の自分の「人生という舞台」をどんな風に彩っていけるかを思い描いています。人生に彩りを!

最後に私の座右の銘　**「人間万事塞翁が馬」**　良きことも　悪きことも　穏やかに寛容でありたいと思います。

患者環境等サービス委員会より

令和2年あいさつ運動!
患者環境等サービス委員会

昨年から活動を開始しましたあいさつ運動について、感染対策に気をつけながら今年も行いました。7月29日（水）から8月26日（水）まで毎週水曜日8時～8時30分の30分間、1階救急外来入口と地下1階入口の2か所で患者環境等サービス委員会のメンバー18名が緑色のタスキをかけて2名ずつ交代で行いました。元気なあいさつで返してくれる方も多く気持ちの良い清々しい1日のスタートを迎えることができました。

患者環境等サービス委員会では今年度の標語を『あいさつは　人より先に　元気よく』とし、活動しております。あいさつはコミュニケーションの基本とされておりますが、ついつい受け身になってしまって自ら率先して出来ていないことがあるのではないでしょうか。まずは、各職場であいさつを自ら率先して元気よく行い、より良い職場環境、患者環境になるよう積極的に取り組んでいきましょう。あいさつ運動の取り組みが広がり院内の環境・サービス・接遇への改善へ繋がることを期待しています。

新型コロナウイルス感染症 院内対策の取り組み

感染管理認定看護師　新開　美香

2019 年 12 月、中華人民共和国の湖北省武漢市で肺炎患者の集団発生が報告され、武漢市の封鎖などの強力な対策にも関わらずこの新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）の感染は世界に拡大しました。日本国内では 3 月下旬から患者数が増加し 8 月初旬をピークに減少していますが、当院では、新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐために以下の取り組みを行っています。

① 職員への教育と周知
② 一般の患者さんと新型コロナウイルス感染が疑われる患者さんとが混在しない工夫
③ 問診票を活用し、入院・外来患者さんともに水際対策の実施
④ 感染者の受け入れの準備
⑤ 新型コロナウイルス感染症対策マニュアルの作成

今回は①と⑤について紹介させていただきます。

①について

個人防護具の着衣・脱衣手順について実際の物品を用いて医師・看護師を中心に指導しました。手指衛生の効果、行うタイミングなど部署別で実践しながら説明しています。（写真1）

病棟では感染リンクナースが中心となり日々のケアで実施できているか指導・教育しています。

写真1:手指衛生の指導場面

⑤について

今年 1 月に作成した新型コロナウイルス感染症対策マニュアルは、随時医師、看護師、検査技師、薬剤師、管理栄養士、事務職員等、様々な職種と話合い修正、追記を行い毎月改訂しています。マニュアルに沿って各部署で感染対策が実践されているか感染対策チームでラウンドを実施しています。（写真2）

写真2:病棟ラウンドの様子

今まで通院されていた方、体調を崩された方が感染リスクを恐れて受診を控えたり、先延ばしにすることがないように、継続して対策を実施しています。

現在は、日本医師会より「院内における新型コロナウイルス対策チェックリスト」に沿って、患者さんも職員も安全で安心して病気の早期発見、早期予防の医療が提供できるように取り組んでいます。（図1）

図1:「みんなで安心マーク」

呉医療センター・中国がんセンターへご寄付をいただきました。

くれ産業振興センター様の斡旋で、新型コロナウイルスの飛沫感染防止のため、株式会社光文堂様から、新型コロナウイルス対策用スタンド型シールドボックスの試作品を、ご寄付いただきました。

令和2年6/1～8/31の間に、呉市医師会様、西村健史様、一般社団法人SPEQ様から、医療従事者への支援等のため、マスク、フェイスシールド等のご寄付をいただきました。

当院において患者さんが安心して受診、入院できるように感染予防対策に使用させていただきます。ありがとうございました。

また、呉市内の医療機関や企業、行政などで取り組む医工連携の一環で、有限会社ファッションリフォームエース様から、胸部サポーターが市販されるとの報告を受け試着会が開催されました。

編集後記

今年は例年以上に暑い夏でしたが、朝夕は涼しくなりようやく秋を感じさせる季節となりました。
さて、今回は当院の新型コロナウイルス感染症院内対策の取り組みについて取り上げました。
今回の記事で少しでも多くの方が当院でどのような対策が行われているかを知っていただき、安心して当院にお越しいただくことにつながれば幸いです。

（広報委員会 委員長）

〒737-0023 広島県呉市青山町 3-1(夜間・休日TEL.23-1020)　発行責任者　呉医療センター院長　下瀬　省二
https://kure.hosp.go.jp/